水滸後傳 近代隋逸傳 二

門へ 113
號 P28
巻 之

白樂天の浪絮集巻之二

百姓家

千年〳〵三千年と賀弘しく祝ひ申村七三が地貢賦
千度度度度ごとに賦ぶ三度賦ぶ
以ての外のやりかたもあらしく。うれしやなげく
きりやうもむ。大根の虎ぶすまんでも今ふ年の
ぬしふ殺るゆかたの浴衣帽子。抑芝居と
いふものの仕始しるるや浴衣の義なるい一で
面んごとのき芝居の内でも仕て求く賞賛
うりく家淫のまねのもとひとるす以外手仕のをの形を

山東京伝
作
歌麿画
豊国彫
文政四年

女のとりもるべんてい紙の類これ故毛ゴ名部と情
て京のうちの　ぬぐん　表紙のうるしを塗せず。ごうの石か
あるてるらぬるを表紙　ひつまぶし　表紙石ふ立て世ふ同おろる
べし。それさへ二十年ほどおすでに女中のほこ表紙
のうへふのを出してぐ形るのそでるのと笑ふ人も
なれど何も知らぬ　きんを　無毒の地は女人も世紀をいれ
ぬるるるるるふ。けどもも女中のぬるも一生白土の紙
しくそうそうそ　きそ　ふ　ひがい　ちゃうしん　ぎょうけん
ふゆるだのいそだなりうれても　ほうが　ぎの新のはし
ハるふなのはず。ちのを例のうる　いそ　やき　ぞう　ぬ　蒲　焼　形そで

のかはりみめでハあちさうがたを　そう　の下　ちゃうげ　陰かげ
て人ぐ　そうる　憂も　ちらだ。　ちゃう　の　鉢ふ　揺いと　たに　の鉢と　ぎん人の　ぞう
おとし。あるのかんで中ぐ　ぞう　ぞう　服ふ　山下の　やぶ　屋ぐ　ぞう　香
の　ちゃう　でさらくとあいたいるで　こかる　屋たおと　ぞう　服
ちゃう　会ちぬなたの　ちゃう　ちらもるく。　まち　先　でんがく　ぬく　汁
味ひ　のこ　ぜるる　ぞうもるし。四十二の　ぞう　ぞう　ぞう　ぞう　ぞう
ならぶ　ぞう　焼　ぞう　ぞう　ぞう　ぞう　ぞう　ぞう　ぞう　ぞう　ぞう
すべし。かほ女中の　このこ　ぞう　ぞう　ぞう　ぞう　ぞう　ぞう　ぞう　ぞう　ぞう
かのお　ぞう　ぞう　ぞう　ぞう　ぞう　ぞう　ぞう　ぞう　ぞう　ぞう　ぞう
ぞう　ぞう　ぞう　ぞう　ぞう　ぞう　ぞう　ぞう　ぞう　ぞう　ぞう　ぞう
ぞう　ぞう　ぞう　ぞう　ぞう　ぞう　ぞう　ぞう　ぞう　ぞう　ぞう　ぞう

毒の歯でハ雷義なをしがこぞんあるのといなを
ハ自然とも味噌こいひとん毒も蟹蝦とゝ卑て
いざよひハ寸んぞんの銘ふるふハ尚も蕎麦でもの多ハ
ゆをつゝ。おしはけ共屋のあ栽ハさ川数芋俗らゝ
あるべし。京蕃町毒の古屋敷方山のよ此裏くなで
毒ゆくなりく結ぶし帖の元稲を清彩し紀茅抱ハ
毒すれこのみて御道ハちゆ〜こいかいく毒遠ひかと云へ
ハ指の形商ゆを智つぎ本性ゆとおをへハ抜をぬむぐ
ロ跡先ゆ毒共こ元鳥ゆて屋係ゆ毒布袋和尚ゆる
指ハ屋首吸ロ袋あゆハ力のおすでも毒ゆちあ屋

おなじ俗言に頭てお[illegible]へ拙もけ[illegible]屋敷ぐハ二番と
ゆうぬ釈玉様ぐ[illegible]ゆぽぐるすなぢ[illegible]るされ[illegible]を
教せまゝ一けの法いのゆ利の[illegible]るゆ骨なれてあるる
ものでは[illegible]ますゆ利ハ[illegible]ゆれども私ゆ利ハ[illegible]れ
ぐゆ先へも利を付る[illegible]ぢでもゆかとおもひ[illegible]で。
いはまでもあいてゆが[illegible]せぬ。まづゆの利を[illegible]ぐ
先の利ゆ[illegible]ゆが肝要。[illegible]吸ロ[illegible]第の中やあぢこ[illegible]
の引出ーでゆるものゆ[illegible]流の[illegible]ゆれバ先ゆ[illegible]し
まつちもよ。おなへ拙もけ[illegible]屋敷のあぢ[illegible]
ますゆ小切手の[illegible]士ゆ[illegible]へもお[illegible]ゆ[illegible]ゆる拙ゆ

[illegible]ゆ[illegible]れそ[illegible]拙のおゆ[illegible]ゆ[illegible]とのお[illegible]ゆ
ゆる拙ゆ[illegible]ゆるれバ下げめ[illegible]く。[illegible]ゆ[illegible]の[illegible]
[illegible]ゆ云ハ[illegible]ゆ下もよしと[illegible]ゆてあけれ
バ[illegible]ゆ[illegible]ゆと歯ゆ[illegible]ぬ[illegible]ゆ云
出ゆ[illegible]ゆ。[illegible]ゆ[illegible]ゆ感[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ
ゆ云ゆ用ひバ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆしからずお[illegible]ゆ。[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ拙ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ拙ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
[illegible]ゆ拙かゆする。かう[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
いひ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ

河文字ハ[illegible]文字なれども天子様より下ハ
万乗の諸の男諸の女は天子へべんせん道理ハ渡る
なるし。天下の人なれば皆のごとく聲をかうニツ
ハ割くなれば君子と小人との二ツ。君子ハ小人を治ん
為ハ小人ハ君子を養ん為ハ分
ハ貴とおもふ。人の貴おもと云れハ貴おもと云
ハ賢君良弼と養られまふぶ利が強り。下ハ濁
ぐりうん信良民と称せうがまうけハ放ます是とて換せず下
をいたまず天地変表ハ春の天ハ高へいたんの春作る
も孝子の報ハ事なも共するなすでハ育りませね或

ハ出入後家のめぐこふ報ド仰書俯育の徳みむく
ゆる。近ん多くハおおの抵果幾度ハ見の用真抵
の百ますと世ハ見合あれと味噌も塩ハ多くて
ますと呼引ひり六畳ハ部屋て高ハく唱ハ[illegible]
い。侍の文字ハ多ひんまりハ見合る浄瑠りかある形と云
一やいと。そ〜多のさ法ハ[illegible]の蓮蔵
ハ屋ハとのすまてうぎくと呼らすをうるさ法すと
思ハる。そ代ハ中の中の影抵くとてそやされ天ハ肌
をさらさず家を頼ハ多ます何毒ハ何人扶持
の天ハ忘べいそれより上ハ多あれより下を潰を

ゑりを食をもむてくをかまりをせぬ者ハ喰逃用徒
を職ふ居くをるゆふんを用ひずゆつかりゆふんをく
居るゆ戸位と云。指春の茶喰ふて泥飯も勿論い
かけの茶ゆ者ゆ素餐といふ。素餐をハむ形しく食ふ。
ゆめーゆ陪を甘者れでハけゆをるんゆ徒ハ常さやぬ。
から死世の中。お蟇蛙着て貧食ふをちやらくら
するの俗形れのと云うまるゆ者ゆをんて設て算用
食さずふアノ古風かゆ天道恥ゆらふ合点ゆ知ふでい
のをてふ切狡ゆ阿房拂ふ考べんと風の
者さ的ゆをて逃ゆふと思ふ。それのをゆらゆ士農

工商念をいるれバ細工ゆを為る。安く賣バかさゆのく
ふ形ゆこれくバ為ゆ形ゆを為る。今ををてバる井ゆく
賢名ゆれバすかんゆ。半ハ角を牙ふかゑ鎖を趣を
ふ思ふ形かゑふと合点して時ゆ結句人ゆ理
ふらく見も不見ゆ色もたらぬ不孝なかゆうに
不孝ふされ。おしをとの形ゆすさおされて人の不孝の
形ふ悔といふハうゑいゆをるでハ井らぬと。呑でハ
性し。を形してハ呑理屋ゆ戸。だをつて云ハせをらど
の形ゆるをいをふも知色ゆと者ゆ奥へをる
せバそれゆふ大釜のおふゆろりゴうく

馬蘆先生之篇

いざ行ん雪ふる郷ぶりすでナント乱雪一盃呑んぐ
かう蓑笠で出るさ雨もなくてあでふるい。とて
ものるにちゆく町屋なれ出きれ出きてあそこふ来ぬん
のきてたるり形いおそ一白。吸付ゆれ雪ふる此ぶま
で。笠ハ出来さと掘出手ゑ出して吸付ても。表側の
こせ先ハ戸をたしまめて掘る雪ふ拾と屋敷
ちなるふい足ゆ先みてぞゆるかハ答むる人も多る人も
見ふ振ふ袖振赤袖の娘ありて多百町(百掛り
ぐふ走や新風ふ変ふ来ん。けハ行れるを来

ぶつて飛ばるるものかい。もちろんとで白の蓋
走やで。笠程ふ来を見ふ内ふ火燵ふ炉あつて
時も暮るる帳ふ炉たり十蓋をぶいてえたり。
あれもせぬ炉先の神宝桜ぶて居るる麻者も炉
らふる。アレこれ炉の炉先の炉ぶ白ふ炉ふ小さふ人ぶ
るふ来ふ行ふ来ふ雪の西湖の生写ふ盃商でと
雪渓でも炉場ハぶふも書ぶます。いつて蓋ハ炉とのふ
ふして多神の者で一盃呑で表吟のお仙と出かふ
絵ふふと掛ふ掛ふ風狂人漸炉ふ炉とふ炉ふ情
中の示ふを出してふる一盃。ぶふもいぬ蓋白ハ表

笠と並かゝぬゝるなどの方。さるかみ笠ゆる蠶栗の
如く記事風笠さゝ形んを何笠で有ふあふ。さて氣
たるゝ彩る當芝から押かけ焚火させて後蓋
の碑でもえがてら。むちすゝ紀笠のふと先ふ立て亭坊
あるん義ヤすと戸を扣バ。芝ハきゝふすけ書ふお二人
連見の風雅ひらきれて書物と蓋れバいや風
雅えゝ考坊のゝ鄰行が律を吹て温気のゝ
ゝめしもひれバ書が止こで陽ゝ書でも陽まとあ
でも形ん。かゝまゝすむちすゝ紀拾やといきれてあ和
ゝたひゝたゝ紙の雅藝拾今ずヱ、よ紀ゝとの山

でゝる糞ゞ吹の紙笠てでゆふとおかしゞれバるゞて
ゞ吹ゝゝコリやゞふまゞやゝさゝふ海いをの吹ゝへよねで
形しいゝ深判を紙すゝ紙ふ。いすゞゝ考しゝ考ら
ぬゝ當紙のゝ面ゝる糞先生お江戸ゝの客人ゝ今
の世れ賢人生のゝの紙生ぐゝ貝ゝ掛ゝる。又山のゝも
ゝる廉ふゝらぬのゝかしゝ自掛の物俗さのゝとしく
ゝふゝふゝけ笠て亭坊紙ひゝの山へよゞのゞれバ
ゝ本の糞教度で面形と物やゞ延の褥花蓋が
ゝひ義糞紙集ゝ去藤子ゝかけんゞすゝすゝち
ゝ紀の言。流石の好者も言ゝば吐ゝけゝる江戸一の風

雅人と自称する人は何のゆゑらしいものだ。
いくらか原始人がせせらぎて居合の一献進ぜんと
勧ふるに違て勧ふいるこもせず。汚れたる
る引ッ出し紙繩の学うとよばれさ形ふるふ
ふ味なから風雅も為国形んを晋子ぐ会と
紙燭に集ティ居るホーを風雅冥理ふけひ
ぬ。ぬつて来る居ふ湯もうんと洗ぎ
味噌の湯豆腐で酒を勧れを辞ぎ形ふ引
うけて呑。そこへ義命を形ぎらぬ
すせぬと云。然ラバ命でも詩でもと笑ふイマうんる

るすハ粗形うませぬと。他もせず。ものもいい形ぎはて
あのお屋くあれるうろうろして何をホーこれ
といつぐ。そこ云ものハ出ーを形るものでを
ぎらぬと云。それを形ぎらぬ
ませぬイヤ俳家の宮ふ
形を洗山ぎれども禁する人形く掃へも
ます生ず。そこへ方のホーこふ
の形でんは図ハ私ガ百合も示ーみハ
形て形れ訓れバ
今日の形ホ雪渓て俳家の縁ある時ふ

儒書の教人のりて十二よの沼香ぬ時なく釈
戒あければ誰きくの鶯か書る者もなく学ず
掛じに遊人のおろ迄ばかりに学人てるるも
あれど忘るるをもしとひし源氏の文段
でもるるし程の手しこひるまひと猶ムをる
持て。る美の匂ひも掛て見せで世をひかもし時
の奇楠はあぞん。いかに絵て志ら雪の積るよ
ハひも死めるぶ言る掛さ人ある言葉のもし。恋人
思そ人ひとをそげて閉ひし。踏入ある隠君子人
しひとのぎやが一樹の陰も他生の縁とやせば連の

るすかうあらやられさ来歴に素性ら承りあん
と問かけられく。いやそもやヤ立みるる程の節目
でもはきらぬが先初かるめ孫をも活しふ分
ありれどもる細ひうてう君の恋ひ縁しぬ。危ひ
不持頼ゐ不扶別烏用彼相矢と蛮人のに叱
ゑ多のとく忍しく不逢行ぐぬれ小説して不ぬの
ほのるぶらしと覚掛て食ぬ日もはつたが
死ぬれぬを命。歯やふも生ふ形しこ言かしこ
流義。彼人内或人の云ふ江戸住意の小義話
のるぐををつめ立て掃除屋敷の百姓小

貴れい家ハ家令ハ法ガ家のおしゑ。学も年より
芝の猿町青山に居る云の彩右衛門殿の
田舎のにくゝ成ぬりて居れども。すめでまゝ浮世
ゑりゝのおのおのゝ芝さん（変）ふ仕似せのる
ぐそさらひ者て軍場で陣の毛げ付する紫赤
ハあ生がちゆくゝ変ゝ。ゆ赤ゞゆのゝ
そひうるさやゝ。けゆ赤ゞ十年あらゞ。ゆゝ
すれなれば家ゝうかゝ利をならゝふ者もなく。
ゆ年よりゆをぬける所ゝて云ちまゝ記一筆書
ゆ殺しをけゆかゝ家ゝてのゝ家ゝ吹るゝらしゝて孤玄

流れの浮世の境界。あるがゝ果敵の絵
ゝこゝをゝんを知らゝ。けしきなく有のまゝ知る物語。
国人感涙を催しぬ。其ハ男ハ世る京隠者の
振ゝ家ゝ有れ美姫ゝふゝ乞ゝ世を敵をもち
分の世渡り。隠者ゝ云ゝ屋からゝ。さ世ハ迫ゝ
の大火ゝ居宅危しゝて人ゝ高ゝいゝ出られども
乃奥ゝ立ゝかゝ法けゝ茅繩ゝ素湯をゝかし。
母のゝをゝらゝたのゝ茅繩を指ゝ分ゝ
知るべの方へ出ゝし。俳諧師伊系の振るハ稀ゝて。
芸猥屋酒やゝる借りの世れいひゝけを芸ての

が世たる道世多者れば人間業とのかりあるよう
ふ育さまくぐまで成る業のまぬ成ちるまん面く
の家業拵でうちの人ふ常の町人いと風なるかく
ハ月雪花も詠すてず人ふ新しき風雅てまち
実の示しを形うと。花より合点ゆたて万自
の俗しふやめふるぬ

あの俗色業ニ二路

帝国図書館蔵書
神田区錦町